

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200214		
法人名	社会福祉法人 唐津福祉会		
事業所名	潮荘グループホーム		
所在地	佐賀県唐津市鎮西町打上3075番地1		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成27年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行が少しでも予防できるように、毎日手指の運動、指先を使ったレクリエーション、計算問題、パズル、書き取り等を取り入れている。身体的機能維持に体操、歌、散歩を行っている。本人の得意な事を見つけたし、生活の中に自信がもてるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは木々に囲まれた小高い丘の上にあり、春には桜、秋には紅葉など四季折々の風景を楽しむことができる環境となっている。広い敷地には特別養護老人ホームや高齢者生活福祉センター、デイサービスなどの施設があり、介護・医療・栄養管理などで連携を図っている。建物は新しく明るく、各個室にトイレのがあり、清掃が行き届き清潔な環境を維持している。また入居者の表情は穏やかで家庭的な雰囲気を感じる。職員は有資格者が多く、介護に対する意識も高い。入居者の状態に合わせた体操や学習活動、散歩など取入れることで、入居者の心身機能の維持向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感謝、やさしさ、安心の理念に基づき毎日実践に取り組んでいる。毎朝の申し送り時にも理念を復唱して常に意識を高めている。ホール内の見える所に「理念」を貼っており、共有している。	理念は開設時に職員皆で作りと、見えやすい所に掲げ、申し送り時など、職員で復唱し共有を図っている。入居者に対する言葉使い等、気になることがある場合は互いに注意するように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内の他事業所から知り合いの方の訪問があつており交流されている。又地域の正月行事に参加して交流を行った。運営会議で事業所として参加できるもの、お手伝いや職員の参加出来るものなどを情報収集している。	地域神社の鬼火焚き、隣りにある保育園の運動会には入居者も参加している。法人職員で和太鼓グループを結成し、地域行事にも出向くなど交流を図っている。地域からのデイサービス利用者の訪問があり、入居者と会話が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する勉強会を行い、運営推進会議にて委員メンバーに支援の方法等を伝えて理解して頂いている。家族より認知症者に対する接し方や疑問などの相談があつた時は、わかりやすい様に支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員メンバーに活動の報告、入居者の状況報告を行い、そこで得た情報やアドバイスを元にサービスに努めている。	年6回定期的に開催し、議題はその時期に応じた内容を設定している。地域の住民や行政、入居者家族の意見などを取入れ、充実したものになっている。議事録は誰でも閲覧出来るように玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場や電話で相談をしている。月に1度は市委託の相談員に意見を聞いて改善している。	月1回、行政から各事業所の空き状況などを配信しており、定期的に連絡を取るなど、日頃からの連携が出来ている。さらに業務の中で疑問点などが出た場合は市に相談を行い、業務内容の改善を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の禁止を理解しており拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていないので自由に入出りができるようにしている。夜間(19時~7時30分)は施錠している。	代表が講習会など参加しており、その内容を貼り出したり、伝達して身体拘束に対する理解を深めている。玄関の施錠は夜間帯のみで、身体拘束は行わないことを掲げており、拘束が無いよう、お互い注意喚起するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会で虐待について再度確認を行い、現場においても職員同士注意するようにしている。言葉使いにも十分注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	集団指導に参加して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明し不安、疑問がないか確認しながら理解、納得をしてもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し自由に意見が書けるようにしている。面会時や電話で状況を説明家族の要望も聞いている。入居者には話しやすい雰囲気を感じている。介護相談員にも話せる場を提供している。	運営推進会議の時の意見も参考にしており、ホーム内では日頃から話しやすい雰囲気作りを心掛けている。面会時出来るだけ家族の意見を聞き取り、玄関には意見箱の設置もあり、日頃の運営に取り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や毎日の申し送り時に問題点、改善点を話し合い、運営に反映している。	朝の引継ぎ時や毎月の勉強会で出た職員の意見は管理者に報告・相談し、運営改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定により、給与等が定められており、各自が向上心に繋がる目標をあげ目標に向かい、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けており、各自の力量や本人の希望等で受講でき職員としての資質向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団指導時や責任者会議で情報交換を行い、良い点は取り入れてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気をつくり、本人の希望や不安を良く聞き取り、信頼関係をつくり、安心して生活されるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での生活状況を聞き取り、家族、本人が安心して生活されるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見を聞き取り、要望にそったサービス計画書を作成し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に対して感謝の気持ちを持ち、本人が出きる範囲で家事の手伝い等をして頂き共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、必要時に日常生活の様子を報告し家族の意向を聞き共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも面会ができ、面会者があればゆっくり話ができる場を提供している。家族の協力で行きつけの美容室に行かれている。敷地内の事業所から馴染みの方の面会もあっている。	外部からの面会も自由にでき、ゆっくり会話できる雰囲気作りを心掛けている。職員や、家族の協力で外出支援を行い、本人の馴染みの場所などへ行くように心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、荘外の散策等で入居者同士が話し合える場をつくり、孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、家族からの聞き取りで相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	此处での生活を聞き、本人の気持ちを優先して希望に沿った暮らしの提供をしている。	意思表示ができる方について、日頃より本人の思いの聞き取りに努めている。意向の把握が困難な場合、日頃の言動から思いを推測して、本人の生活歴を尊重し、自宅付近へのドライブや農家出身の方にはホーム前の畑づくりを一緒に行うなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係者、家族、本人等から生活歴、暮らし方、サービス利用等を聞き取り、希望に沿ったサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあつた一日の過ごし方を職員間で把握しており支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、日々の生活で本人にとって何が必要かを職員で話し合い、家族、本人の要望を優先し介護計画を作成し、モニタリング、評価をしている。	必要時、担当者会議など開催し、本人や家族、職員で話し合いをしている。また、入居者ごとに個別ケースを作り、生活歴などの情報を共有し、日々のチェック表やモニタリング評価表を参考に、具体的でわかりやすい対応内容で入居者に合わせた計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケースに日々の状態、気づきを記録し職員間で情報を共有している。介護計画、実行表に沿った介護に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養を母体に行っているため、ニーズにより対応できるように整えている。急な病院受診は家族に代わり職員で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りに地域の方の参加があり顔なじみの方との交流を支援している。地域の行事にも参加して楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自のかかりつけ医を持ち、定期的受診、往診をしている。かかりつけ医には24時間体制で連絡できるようにして指示を受ける事ができる。往診、受診の結果は家族に連絡している。	入居者・家族の意向を取り入れており、協力医の往診や受診など、24時間体制の医療が整っている。その他、家族や職員の支援で外部のかかりつけ医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に特養の看護師との関わりをもち、入居者の受診が必要な場合は、かかりつけ医へ連絡し受診が行える体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、面会を行い、ソーシャルワーカー、看護師、医師との情報交換を行い退院に向けての支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養を母体施設として、状況に応じたサービスの提供が出来るように支援している。重度化によりグループホームでの支援が困難な時は家族、かかりつけ医に相談しながら対応を決定している。パンフレットに記載している。	入居の契約時、重度化や終末期の対応についてホームの方針を説明している。ホームは特別養護老人ホームが母体であり、本人や家族希望、医療機関との連携を取りできる範囲での支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し応急手当、初期対応の訓練を勉強会や日々の介護で勉強している。急変、事故発生時の連絡ルートは、確実なものとなっている。心肺蘇生法、AEDの使い方も学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を定め消防計画書を消防署に提出している。消防計画書をもとに、年2回以上の消防訓練及び、防火訓練を実施している。玄関に避難経路を掲示している。地域の方に協力の依頼をしている。	職員の緊急連絡網や消防計画書を作成し、消防署の立ち合いのもと夜間の想定を含む消防訓練を年2回以上行っている。災害時想定3日分の備蓄もある。地域へ協力を依頼しているが連携体制までは築けていない。	職員が少なくなる夜間帯など不安が見られるため、地元消防団や地域住民の参加を含む避難訓練への参加要請や対策作りなどを行うことで、よりスムーズな避難誘導ができることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、目上の方であることを常に意識し、一人ひとりにあわせた言葉かけを心がけ人格を尊重した対応を行っている。人前で言われたくない様な事は、その人だけに聴こえる声量で伝えている。	一人ひとりに合わせた言葉掛けを行っている。排泄時などは羞恥心に配慮した声掛けや対応をしている。又難聴者にはボードに書いて、大声を出さないようにしている。記録は所定の場所に保管し個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を傾聴し、自己決定ができるように働きかけ希望に添えるように努力している。しかし希望を尋ねも、答えて下さる方が少ない。たまに外を歩きたいと希望された時は、一緒に散策している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床等は本人の要望を聞いて声かけをおこなっている。入浴や散歩等も希望を聞いて対応をしている。天気の良い日には、居室で気持ち良くお昼寝もされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にホットタオル、ブラシ等を渡しきれいにしておられる。訪問理容があり、希望を聞いている。家族と、いきつけの美容室にいかれている。就寝前に、洗顔され化粧水や乳液をつけられ肌の手入れをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自に適した食事形態や好みを取り入れている。出来る方には、米とぎ、お盆拭き、テーブル拭き等して頂き自信が持てるように支援している。	本人の好みの聞き取りに務め、テーブルに季節の花を飾ったり、月に一度お楽しみ昼食会を開催している。調理は母体施設で作っているが、つぎ分はホーム内で行っている。また、季節毎に自前の畑でとれた野菜と一緒に収穫や調理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体操、機能訓練を毎日行っており、天候を見て散歩をし、体を動かす事に努めている。水分摂取も心がけ、摂取量が少ない方には、別の飲み物を提供している。腹部膨満ある時は、マッサージを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯の洗浄、歯磨きを出来る範囲でして頂き清潔に努めている。緑茶を使っている。週一、必要時ポリデント消毒。口腔内の痛みや義歯の不具合があった時は、歯科受診や往診をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をしており、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけを行い介助している。夜間もトイレ介助している。頻回にトイレへ行かれる方がおられ、排泄ない時も多いが毎回付き添い介助を行っている。	各居室にトイレがあり、気兼ねなく排泄できる環境にある。個人の排泄記録から排泄パターンを把握し、本人の様子観察を行い、無理のないトイレへの声掛けや、移動の支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、機能訓練を毎日行っており、天候を見て散歩をし、体を動かす事に努めている。水分摂取も心がけている。腹部膨満ある時は、マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望、体調に合わせて実施している。拒否のある時は、時間をずらしたり、別の日に変更したりして、無理には行っていない。	本人の希望を聞いて対応しており、入浴拒否の場合は、時間をずらしたり曜日を変えるなどの対応をしている。また入浴剤を使用したり、お湯の温度調整を行い、会話を楽しみながらゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子を見ながら、声かけを行い状況、希望に応じて休息してもらっている。室温にも配慮しており希望を聞いて調節している。部屋の換気もこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を綴じており、服薬時は、顔を見て、名前を声に出し、職員二人で確認している。薬を飲み込まれるまで確認している。異常があれば、主治医に報告して早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方は、自室の掃き掃除、シーツ交換、洗濯物たたみを職員と共に行っている。お盆拭きやテーブル拭きも声をかけ手伝って頂いている。季節事の行事、誕生日会など行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に担当者が計画をたて、ドライブや地域の行事に参加している。天候を見て、散歩等で気分転換を図ったり、隣接する保育園の運動会を見学し喜ばれている。	花見や自宅近くのドライブ、近所への散歩に行ったりしている。全員一度に対応はできないので順番に一人ひとりの希望に沿って対応しているが、外出の機会は少ない状況にある。	具体的な外出計画や入居者の思いを実現することで、外出の機会が増えることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はいない。欲しいものがある時は、家族へ伝え持参してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に希望がないので本人からの電話はしていない。職員から家族に状況報告等をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓があり外の景色や空が眺められ四季の移ろいを感じることができる。庭には野菜や花を育てているので成長が見れる。台所も同じフロアなので大きな音をたてないよう又臭いも換気をして注意している。	建物は清掃も行き届き、広々としている。共用の居間と食堂の大きな窓より光が差し込み、緑の多い風景が見え明るく静かな作りとなっている。季節の花を飾るなど居心地のいい空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ゆったりと座れるソファやテレビがあり、他の入居者と一緒に過ごすスペースがある。テーブル席もあって、時々一人座られている方もあり気分を変えることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物や見慣れた品を持参され、安心した生活が出来るよう支援している。仏様を持ち込まれ、お茶とお水を毎日替えられ家と同様な生活を送られている。	個室内部は自宅で使っていた布団や家具などの持ち込みも自由で、一人ひとりの思いに沿った環境づくりを行っている。本人や家族の意向を尊重し、居心地よく過ごせるような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーとなっている。玄関は、スロープになっており、廊下、トイレ、お風呂場には、手摺りを設置してあり安全に生活が出来るようになっている。		